## 駐輪場の利用料金を考える。──

多様化するライフスタイル。駐輪場に対するニーズは広がりを見せている。 駐輪場改革の1丁目1番地は利用料金に対する真摯な考察だ!

## 「旧態依然の駐輪場運営は崖っぷちに来ている という危機感を感じています。 今こそ新たな発想が必要不可欠です |

#### **INTERVIEW**

## 内海潤

自転車活用推進研究会事務局長

モビリティは100年に1度と言われる大変革期に突入した が、世の中全体もまた大きな転換点を迎えていることはまぎ れもない事実だ。駐輪場、駐輪システムだけが例外なんであ り得ない。新たな発展に向かうためにはまさに変革、改革、 改善が不可欠であることは当然のことだろう。

自転車を含めたモビリティはさまざまな高機能・高付加価 値製品が次々と生まれている。今後、そうした動きはさらに加 速がついていくはずだ。そこに新たなビジネスチャンスも生ま れていくに違いない。

自転車利用環境の基本ベースである駐輪場はそうした動き に敏感であるべきだろう。駐輪場の機能アップ、魅力度アッ プは自転車界の発展に不可欠だ。今こそ旧来の壁を破り、新 たな駐輪システムの構築を急がねばならない。

以上のテーマを念頭に置き、自転車活用推進研究会の内海



内海潤事務局長



と自転車、さまざまな乗り物の共存が不可欠だ(資 料提供・パシフィックコンサルタンツ・浜田誠也氏)



## 「指定管理の入札業者がなかったというのは 我慢も限界に来ているということでしょう」

エコなまちづくりは快適で機能的な駐輪場の整備が不可欠だ(写真は神奈川県藤沢市のサスティナブルスマートタウン)

一最近、地方自治体が主導して整備している駐輪場の指定管理 に入札する業者がなかったとい う事例が結構あるようですね。

「それに関しては行政側も想定外だったと聞いています。入札する業者が1、2社はいるだろうと思っていたら、どこも手を挙げなかったという話で、異常事態です。業者の皆さんに事情を聞くと、人件費や物価の高騰で今までと同じ条件で受注するというのが厳しい時代になってきたということなんですね。そうなると、行政側も対応策を考えざるを得ないでしょう。ご存知の通り、駐輪場の利用料金はここ30年以上、変わっていないんです」

一長年、値上げがなかったタマゴとモヤシの価格が上がったのに駐輪場の利用料金は30数年にわたって据え置き。これは何とかしないといけませんね。

「2017年に自転車活用推進法 ができて、日本の自転車利用環境 の見直しが進められているわけで すから駐輪場も進化していく方 向で頑張ることが大切です。旧態 依然の駐輪場運営は崖っぷちま で来ているのかなという危機感を 覚えています!

―どうしたらいいんでしょうか。

「時代の変化ということを行政の側も認識すべきです。今までは行政、駐輪機メーカー、管理事業者の関係がうまく稼働していたわけですが、その関係の有り様をいったん見直して、どういうやり方だったらうまく運営がまわっていくのかを話し合っていくことが不可欠です。落としどころを探っていく作業が必要です」

―とにかく駐輪場の利用料金が 安すぎますね。

「人件費を含めて、どの業界で

も価格が高騰しています。駐輪場 業界だけ別というわけにはいかな いでしょう。今までは我慢して、我 慢して何とかやってきたわけです が、入札する業者がいなかったと いう事例があるのは我慢も限界に きているということです。機能性 に優れた、魅力的な駐輪場が増え てほしいので、それには利用料金 を見直す必要があるということだ と思います。まして最近は自転車 の種類も多彩になっています。子 乗せの大型電動自転車とかカー ゴバイク、三輪自転車、タンデム、 スポーツ系バイクとか多種多彩で す。そういった自転車を収容する ためには利用料金を含めてフレキ シブルな考え方があってしかるべ きでしょうね

# 「自転車の大きさなどによって駐輪料金を変えてもいいはずです」

一自転車によってある程度利用 料金を変えてもいいでしょうね。 「全然いいと思います。大型の 自転車などスペースを取る自転 車は少しだけ割高にしてもいいは ずです。利用者としては停める場 所がないのが一番困ります。大き なカーゴバイクだとか2人乗りの 自転車は駐輪する場所がないか ら乗ることを躊躇するという実態 もあるわけですからね」

#### ―三輪車もそうですね。

「その通りです。自転車の駐輪 場管理会社さんに聞くと、三輪車 のニーズはあまりないと話される ことが多いのですが、駐輪場に停められないから三輪車が普及しないということもあるのではないでしょうか。三輪車のニーズがないと断定しちゃうのは非常に危険です。駐輪する場所があれば、いろんな自転車が増えていくと思います。初めは5台分でも10台分のスペースでもいいと思うので、対応していただきたいです

一駐輪場業界は放置自転車対策 がひとつの原点で、とにかく自 転車を詰め込むという考えが根 底にあってスタートしていると ころがありますね。

「駐輪台数をいかに確保するか ということがこれまでのミッショ ンでしたが、それはだいぶ達成さ れたと思います。これから先は駐 輪場に付加価値をつけていくとい う方向性が必要不可欠です。ど



普及が期待される電動アシスト三輪車(写真は「BICYCLE-E・MOBILITY CITY EXPO 2023」の椿本チエインブース

の業界でもそういった方向に向かっているのに駐輪場の世界だけ特殊なんですね。駐輪場は公設民営的なところが多いので、行政側の意向というのが強すぎて変化がないまま現在に至ってしまったということがあるんでしょうね!

一自治体も業者もこれまでの固 定概念は白紙にして、新しい駐 輪場の時代、新たな乗り物の時 代を反映した駐輪場の有り様を 考えてほしいですね。

「今後、多様な自転車、多彩な乗り物の開発・普及がさらに進んでいくでしょうからその受け皿としての駐輪場が高機能化していくことは絶対に必要です。それが思うように進展していないというのは問題です」

### 「新たな自転車のニーズに対応した 駐輪場であってほしい。ユーザーの 選択肢を広げることが大切です」

─今のままでは時代の変化に取り残されてしまいますね。

「三輪車とかカーゴバイクや新 しい自転車のニーズに対応した 駐輪場ができれば新たなニーズが生まれますよ。現状では停める場所がないから新車種の購入も断念するということになってしまっているように思います」

一新たな自転車のユーザーを増 やすという観点で考えると今の 状況はマイナスですよね。

「自転車は乗っている時間より 停めている時間の方が断然長い です。安心して停める場所がない ということは結局利用できないと いうことに繋がってしまいます」



#### 駐輪場の利用料金を考える。-

―それでは発展性がないです ね。自転車の機能は進化してい ますし、デザインも多様化して います。であれば、停めるとこ ろもグレードアップしていかな いと価格だけの貧乏競争になっ てしまいます。

「旧態依然のままで終わってい ては自転車業界全体の発展につ ながっていかないです|



グッドデザイン賞を受賞した京都市の御池通路上駐輪場。 利用料金は高めだが利用者に支持され、常に満杯状態だ

―地方自治体が駐輪場料金の条 : 例を変えようと動くと地方議会 で反対される。それで手が付け にくいといった話を関係者から よく聞きます。だから条例を変 えにくいということです。その 辺の壁を突破していくことが重 要でしょうね。

「駐輪場の利用料金のことが政 治の道具にされてしまうことは結 構ありますね。駐輪場の利用料金 を上げませんみたいなことが公約 になったりします。それはやめて ほしいです。闇雲に駐輪場の利用 料金を上げるというのはもちろん 良くないですが、自転車利用者の ニーズをしっかりと受け止めてい くというか、ユーザーの利便性を

高めていくというのは大事なこと です。現在のままでは少しグレー ドの高いところに停めたいという ニーズがあっても、それができな いという状態をこれからも続けて いくということになってしまいま す。しかし、そうではなくてこう いう魅力的な駐輪場もあります。 選ぶ、選ばないはあなたですよと いった選択肢を提示できるように

> するべきです。全部 一律で料金を上げな い、駐輪システムを変 えないというのはお かしいですし

> ―駐輪場の利用者に 対し、選択肢をつく ってあげるというこ とですよね。

> 「そうです。思い 切った交通政策を打 ち出すヨーロッパと 較べると日本はまだ

行き届いていないことが多いと思 います。もちろん、日本の方が優 れていることもありますが、何と かしてほしいということはいろい ろあります|

―駐輪場に関しては固定概念が 強すぎるように思います。

「中国ではまず良かれと思うこ とは実践し、後追いで法律を作っ たり、実情に法律を合わせていく といった発想で進んでいくところ がありますが、日本は法律を絶対 変えないで何とか運用面でどう にかしようとする傾向があります。 ずっと同じところをぐるぐる回っ て、変わらないまま続いているこ とが少なくないですし

―ともかく高機能・高品質の自 転車を停めたくなるような駐輪 場が増えてほしいです。セキュ リティ、利便性、美観とかをも っと強化・拡充できるよう工夫、 努力すべきところが多々あると 思いますね。

「そういう駐輪場が増えれば、 自転車のユーザーももっといろん な自転車に乗れるようになり、自 転車生活、ライフスタイルがもっ と広がっていくんじゃないかと思 います。現実の自転車利用環境 は駅までとかスーパーまでの下駄 ばき的な発想の域をなかなか越 えられない。そこを越えるために も駐輪場にいろんな選択肢を提 供してもらって、さまざまな自転 車、ライフスタイルが普及する ベースが広がることを願っていま す。そういう中から新しい自転 車、新しいユーザー層が育ってい くのだと思います。自転車のメー カーと駐輪場業界がもっと情報 交換を重ね、連係して新しい環境 をつくっていかないと自転車の ニーズが広がらないのではないで しょうかし

### 高機能の駐輪機を採用できるような 駐輪場利用料金システムの構築が不可欠

─垂直 2 段式の駐輪機とか付加 : 価値の高い駐輪機器を採用でき んね。値段競争だけでは発展性

る基盤をつくらないといけませ



立体機械式駐輪場は利便性と景観保護を両立させる高機能駐輪システムだ (写真は大宮門街機械式駐輪場の内部風景)

がないし、ワクワク感がないです。

「今年、ドイツの駐輪場を視察 させていただく機会がありまし た。ドイツの駐輪場は平置きが多 かったのですが、自転車の数が増 えてきたので空間を有効活用し ようと2段式のラックが出始めて いるようです。しかし、日本人の 私からすれば今頃それが最新式 なんですかみたいに感じることが ありました。ただ、その一方で向 こうはカーゴバイクやタンデムに 対応している駐輪場がいっぱい あります。日本は逆に平置きのと ころはママチャリ専用になってい て大きな自転車の駐輪には対応 できていないところが多いです ね。垂直2段式のラックはすごく 進化していますが、価格面の壁が あります。こうした問題を乗り越 えるためにも駐輪場全体の利用 料金の改善が望まれます。日本と ヨーロッパの情報交換がもっと進 むとかなり状況が違ってくるので はないでしょうか

一最近、自転車に近いけれど自 転車とは違う、電動を組み込ん だ新しい乗り物が増えています。 そういった新しい乗り物への対応も必要になってくると思いますが。

「おっしゃる通りです。警察との協議も必要でが、自転車っぽいけれどペダルが付いていない乗り物とかいろいろ出現してきていますね。そういう製品をシャットアウトし、駐輪場には停められませんって言っちゃったらすごくもったいないですよ。産業発展の芽を止めちゃうような動きはすべきではないです|

一乗り物新時代を反映した駐輪場をつくるということは新たなユーザー層の開拓、新たなビジネスの構築にもつながるはずです。

にそういうコーナーを設置すればいいと思います。駐輪場全体を統一の料金で運営するというようなことではなくて、そのコーナーは別料金にするという発想です。従来どおりの運営方法に固執していたのではそういった付加価値の高いコーナーはつくれません。それはロッカー式の駐輪機だけのことではなく、現在の駐輪界には発想の転換が必要だと思います

一地方自治体の担当者の方もいろいろ考えてはいるのでしょうが、時代の変化を直視することが大事でしょうね。これは業者も含めて業界全体のことではありますが。

「駐輪界全体が先進的な考え 方を持っていれば、状況はガラッ と変わるはずです。しかし、10年 1日のごとく、駐輪場というのは そんなもんでいいんだという考え 方のままですと新しいモビリティ の普及を止めることになってしま います。新しい乗り物をたずさえ たプレーヤーが自転車業界に 入ってこようとしているのに、そ ういった人達を排除するという話 になってしまうのは避けなければ いけません



オランダ・アムステルダム中央駅水底駐輪場。約1万 1000台の自転車を収納できる美しい駐輪場だ ©Amsterdam Municipal Government



源が無線式なのでスッキリした印象だ名古屋市の歩道上に整備された駐輪場は電

## 「新しいプレーヤーに加わっていただけるような環境を構築すべきです」

一自転車の市民権を主張するためには自転車側にも工夫、創造性が求められます。

「自転車のことだけ考えていたら駄目です。世の中の動きを見て、いろんな乗り物と自転車、自転車と電気自動車、電動モビリティの共存、シェアといった発想が必要でしょうね。自転車の立とかだけを抽出してどうのこうのとか言っても、他の乗り物との折意味がないです。新しいプレーヤー、新しいユーザー層に加わっていただける自転車ワールドをつくっていきたいですね。ビジネス的な発想から言ってもそうすべき、そうなるべきです

一駐輪場の話にもどりますと、 やはり利用料金というものの再 考が必要です。

「そうすべきです。世の中のためになるんですから。上から目線でいろんな手かせ、足かせを付けるなって私は思うわけです。駐輪場の管理業者にまかせるところはまかせて、ダイナミックプライシングみたいな考えを導入してもい

いんじゃないでしょうか。機能、 利便性などに合わせて段階的に いろんな料金体系をつくるべきで す。何でもかんでも10時間100円 とか、高級自転車からママチャリ、 電動バイクがみんな同じ料金で すって言われたら利用者の方で も違和感を持つのではないでしょ うか

一利用者メリットの高い駐輪場 づくりに取り組めるような環境 をつくっていくことが大事です ね。

「多少料金が高くても付加価値が付いているならば納得する利用者は多いはずです。そこに対する価値を見出せる人はそれなりの料金を払ってくれます。小さくることが大切です。ニーズがあればずでもそういったスペースをつればずです。駐輪場サイドがチャレンジです。駐輪場サイドがチャレンジにはロッカータイトの駐輪機とかですよ。利用料金もそれなりに高いですが、ニーズはあります。一方で料金の安さを重視

している人もいっぱいいます。日本も同じだと思います。どういった駐輪場を利用するかというのは利用者次第です。選択肢をつくることが大事なことだと思います!

一新たな駐輪場運営の成功例を 増やしていきたいですね。

「確かにその通りです。成功事例が増えていけば相乗効果もあって新しい取り組みを仕掛ける駐輪場が増えていくと思います。チャレンジしたいと考えている関係者はかなり多いはずです」一現代は100年に1度とか言われているモビリティ変革の時代です。乗り物業界全体がそういう機運をふくらませています。特に電動化への変革が急です。自転車、駐輪場の世界も飛躍する絶好機です。駐輪場にも変化、変革が求められています。

「クルマと自転車の共存、使い分けということが必要です。いいかたちでの組み合わせという考え方が大事です。今は自転車の駐輪場とクルマの駐車場が分かれていますが、駐車場と駐輪場を共存させるような発想も必要ではないでしょうか|

一モビリティミックス、モビリティブレンドという考え方ですね。

「ラストワンマイルの移動というのはいろんな選択肢が広がっています。自転車といろんな乗り物の組み合わせということは有効な移動方法です。駐輪場の有り様もそのあたりを視野に入れて考えていく、進化させていくことが大事だと考えています」